

七条中学校だより7月11号

京都市立七条中学校

令和8年7月14日

発行:校長 林 秀雄

ある朝の小さな喜び

梅雨が明け、朝から強い日差しが照りつける暑い日のことです。私はいつものように学校の玄関前の掃除をしていました。ほうきを持ってインターロッキングを掃いていると、一人の生徒が近づいてきました。その生徒は私のところへ来ると、「校長先生、掃除手伝います。」と声をかけてくれました。そして、自分からほうきを持ち、私と一緒に掃除をしてくれたのです。

これまでも、掃除をしている私に「ありがとうございます」と声をかけてくれる生徒はたくさんいました。その言葉だけでもとてもうれしい気持ちになります。しかし、「手伝います」と言って、実際に一緒に掃除をしてくれた生徒は初めてでした。もちろん、私からお願いしたわけではありません。その生徒は別の目的があって少し早く登校していたそうです。約束の時間まで少し余裕があったので、「何かできることはないかな」と思い、自分から掃除をしようと考えてくれたのでしょう。

私は、その気持ちが本当にうれしく思いました。誰かに言われたからではなく、自分で気づき、自分から行動すること。これは簡単なようで、とても素晴らしいことです。そして、その行動は周りの人を温かい気持ちにしてくれます。

ただ、今回うれしかったのは、「校長先生の掃除を手伝ってくれたから」ということだけではありません。みなさんに伝えたいのは、私に対して何かをしてほしいということでもありません。

私は、仲間が困っているときに声をかけたり、重い荷物を持っている人を手伝ったり、失敗して落ち込んでいる友達を励ましたり、あるいは見ず知らずの人に対してであっても、自分が感じたことや考えたことを、言葉や行動で表せることがとても素敵だと思います。「誰かがやるだろう」ではなく、「自分にできることはないかな」と考えて行動する。そんな姿は、きっと周りの人を元気にし、安心させ、温かい気持ちにしてくれるはずです。そして、そのような行動が積み重なることで、七条中学校はさらに素晴らしい学校になっていくのだと思います。

この朝の出来事は、私にとって小さな出来事かもしれませんが、しかし、その生徒の優しさと行動力に触れ、驚きとともに喜びを感じた朝でした。繰り返し書きますが、七条中学校には、こうした温かい心を持った生徒がたくさんいます。一人一人の思いやりや行動が、学校をよりよい場所にしてくれます。これからも、自分で考え、自分から行動できる生徒が一人でも増えてくるといいなあと願っています。この日、私に「小さな喜び」を届けてくれた生徒に、心から感謝しています。

2年生 職場体験発表会

先日、2年生が職場体験で学んだことを1年生に向けて発表する「職場体験発表会」を行いました。2年生は、それぞれの事業所での体験や学びをポスターにまとめ、工夫を凝らしながら発表してくれました。仕事の内容だけでなく、実際に働く中で感じたことや大切だと思ったこと、苦労したことやうれしかったことなどを、自分たちの言葉で分かりやすく伝えようとする姿が印象的でした。また、「ぜひ聞いてください!」と1年生に積極的に声をかける様子からは、発表への意欲や楽しさが伝わってきました。どのグループも、自分たちの経験を少しでも多くの人に伝えたいという思いをもって取り組んでいました。

1年生はグループごとに発表を聞いて回り、上級生の話に熱心に耳を傾けていました。メモを取りながら聞く姿や、発表後に質問をする姿も見られ、職場体験への関心の高さがうかがえました。2年生の体験談を聞いて、「仕事って面白そうだな」「働くことには責任があるんだな」「自分も早く職場体験に行ってみたい」と感じた人もいたのではないのでしょうか。実際に体験した先輩の話は、1年生にとってとても貴重な学びになったことと思います。

当日は、多くの保護者の皆様や、お世話になった事業所の方々にもご来校いただきました。発表の様子を温かく見守っていただき、生徒たちにとっても大きな励みになりました。お忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございました。

2年生にとっては、職場体験や今回の発表を通して、仕事や社会について学ぶ貴重な機会となりました。また、人前で分かりやすく伝える力や仲間と協力して準備を進める力も身に付けることができたのではないかと思います。今回の経験をきっかけに、自分の将来の進路や地域との関わり方、社会にどのように貢献していくのかについて考えていってほしいと思います。この発表会が、2年生にとっても1年生にとっても、これからの学びや成長につながるよい機会となり、未来の自分を考える第一歩になればと願っています。